

小袋谷の主な道

鎌倉から来て小袋谷交差点で右に曲る道は県道二一号线で通称鎌倉街道と呼ばれています。昔は横浜道や横丁通りと言われていたそうです。更に昔は江戸時代後期頃から「峰の灸」が流行り有名になった横浜市磯子区の円海山へ行く道でもあったので、いつ頃まであったのかわかりませんが、小袋谷交差点の小袋谷側に円海山への道標が立っていました。この道標は、十八世紀末に幕府が道中奉行に命じて作成させた浦賀道見取絵図にも描かれています。この円海山方面への道は踏切を渡った後、Y字路を右折して小坂小学校の前を通り大船本村、岩瀬を抜けていく道で、大正九年に県道となり戸塚山ノ内線という路線バスが通っていました。とんでんや農協などの前の道は、昭和二八年頃拡幅整備され小坂小の前の道に替わってこちらが県道となり、バスもこちらの道を通るようになりました。この県道の途中にレイウエル鎌倉入口交差点があり、そこを左折してまっすぐ行くと大船駅に出ます。この道は通称小袋谷新道と呼ばれている県道三〇一号线です。昭和三五年から四四年にかけて拡幅整備され市道として使われていましたが、その後平成十年に大船駅常楽寺間の県道と交換され、こちらが県道となりこちらが市道となりました。

鎌倉から来て小袋谷交差点を曲らずにまっすぐ小袋谷、台を通り抜け戸部橋で柏尾川を渡る道は県道三〇二号线で、水堰橋から先は昔藤沢道とか玉縄道と言われていました。水堰橋の手前で右に曲り

小袋谷をまっすぐ斜めに横切り富士見地藏横から離山の左の山すそを通っていく道は、鎌倉時代の主幹道で鎌倉街道中道か下道と推定されています。江戸時代には戸塚道と言われ、水堰橋際にある観音講の道標には右とつか道、左藤沢道と刻まれています。一八三三年頃葛飾北斎が描いた日本橋から鎌倉江ノ島大山を巡る道中双六でも戸塚道が使われ、その双六の一コマに小袋谷も出てきます。同じ一八三三年の正月には渡辺華山がこの道を通り、巨福路谷村は民家が連なり続いているけれどとても静かで寂しげであると旅日記に書いています。又この道は浦賀道でもあったので浦賀道見取絵図の中に小袋谷村も描かれ成福寺、弁天社、吾妻社、道標などを見ることが出来ます。

大船駅から江ノ島方面へ行く道に横須賀線を跨ぐ小袋谷跨線橋がありました。これは昭和五年に開通した日本初のそして世界でもまだ珍しかった有料自動車専用道路の一部として造られました。この道は京浜急行から昭和五九年に鎌倉市に譲渡され、平成元年に有料を廃止しました。跨線橋は、耐震性に問題があり平成二六年に壊され、新しい橋が別の場所に造られました。